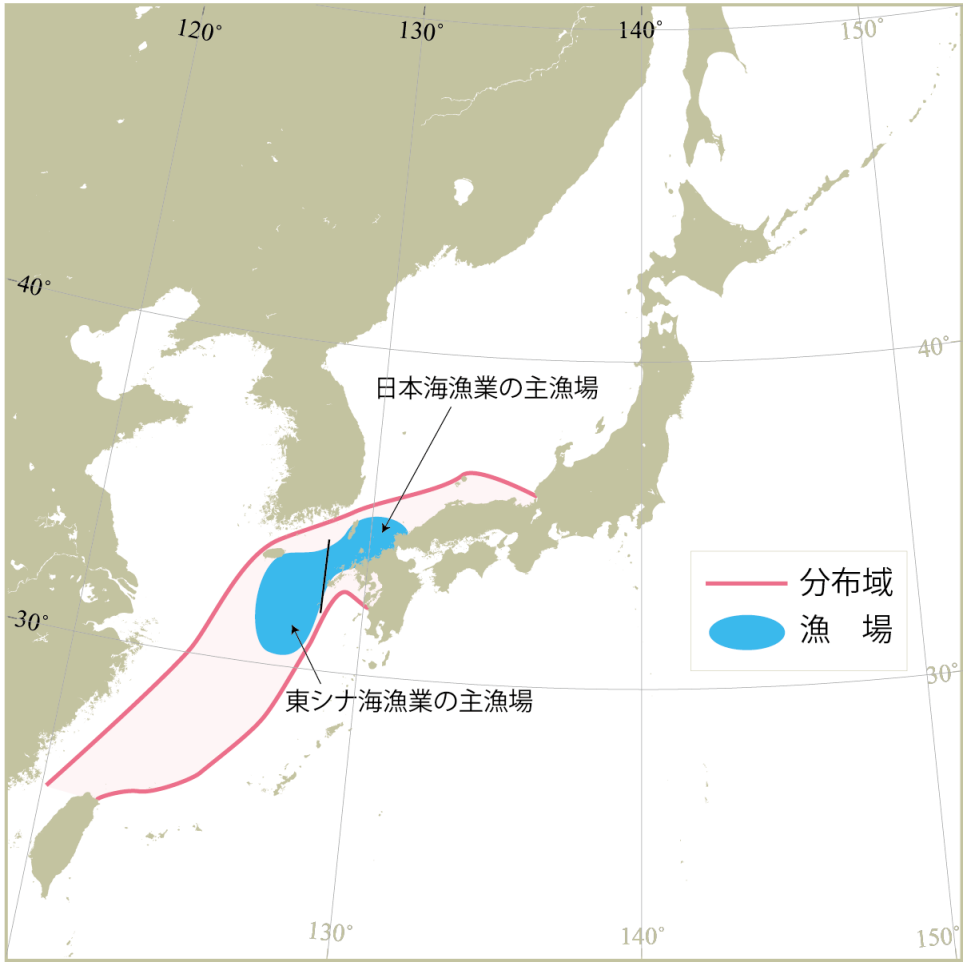
キダイ日本海・東シナ海系群
令和５年度資源評価結果

生物学的特性

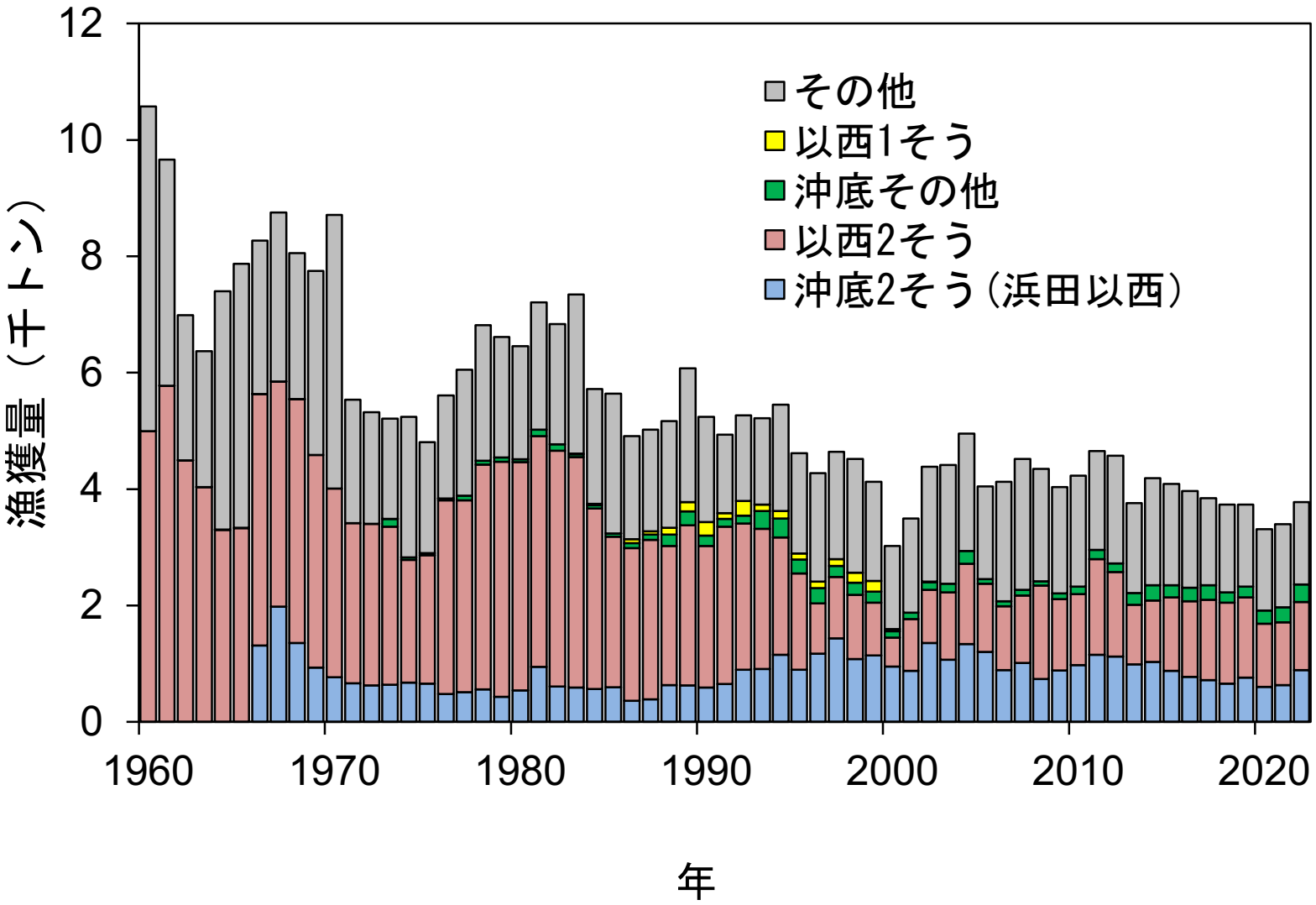


生物学的特性

- **寿命：8歳以上**
- **成熟開始年齢：**
  2歳（50%）、3歳（100%）
- **産卵期・産卵場：**
  年2回（春季と秋季）、五島西沖～済州島、沖縄北西の大陸棚縁辺、台湾北東の大陸棚縁辺、浙江、福建近海
- **食性：主に甲殻類**
- **捕食者：不明**

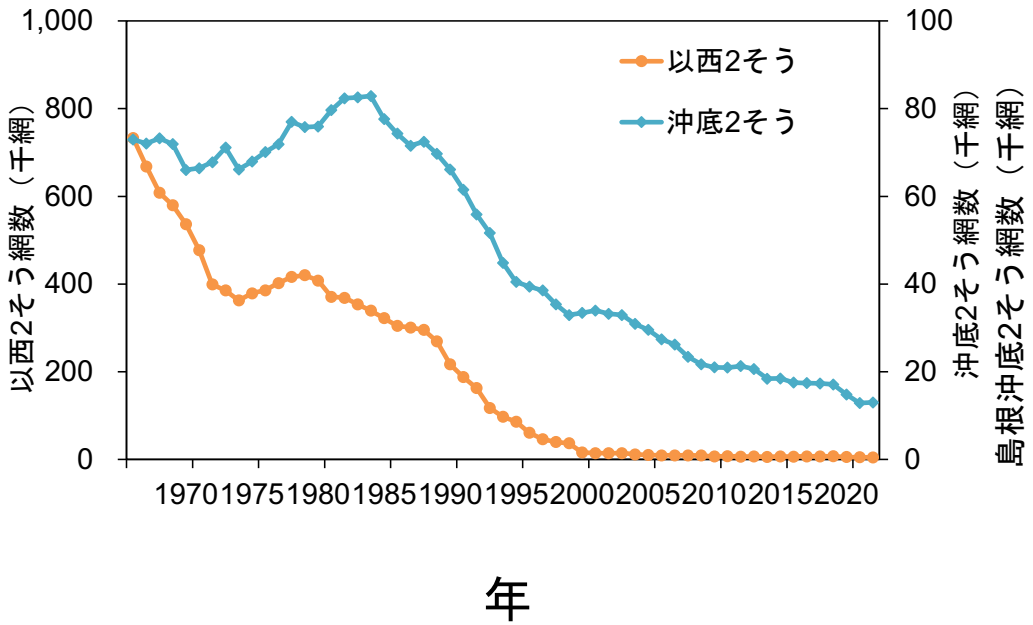
- 東シナ海では以西底びき網漁業（以西）、日本海西部海域では沖合底びき網漁業（沖底）と小型底びき網漁業（小底）によって主に漁獲される
- 東シナ海では、中国・韓国漁船によっても漁獲される

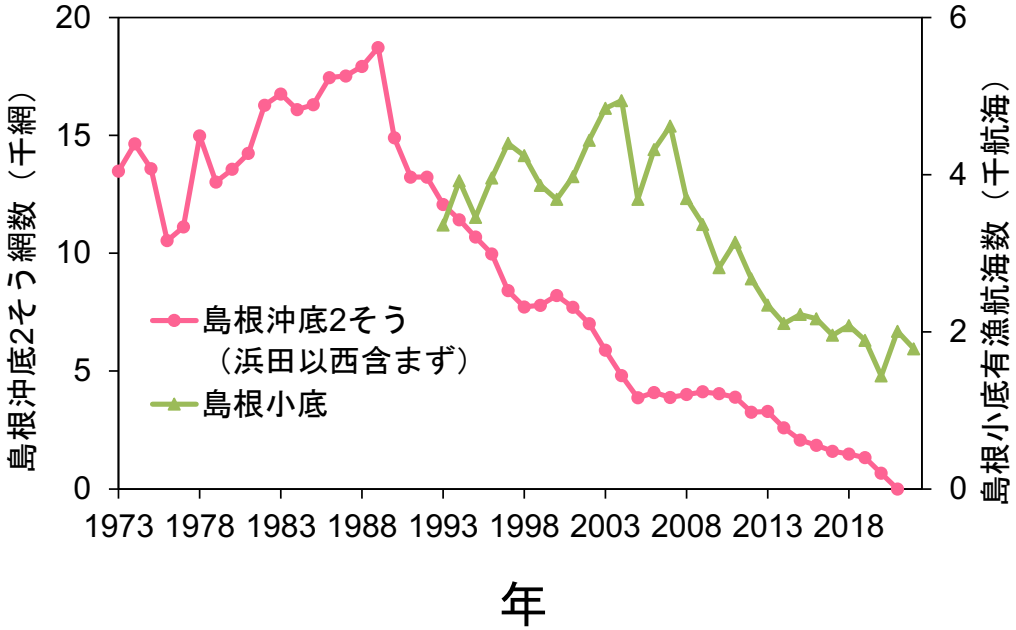
漁獲の動向①



- 1960年代：7,000トン以上、2000年代以降：4,000トン前後
- 2022年：3,775トン（1960年以降で8番目に低い値）

漁獲の動向②

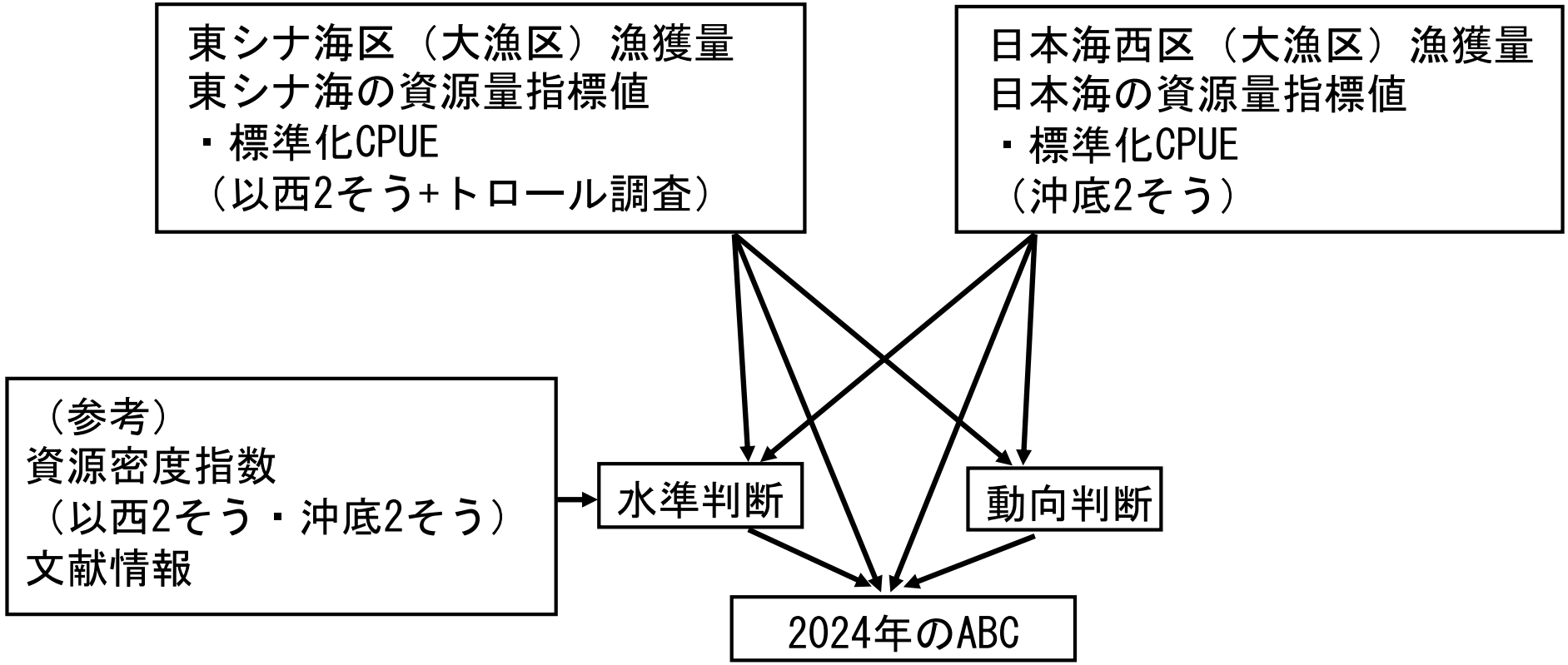




- 以西2そう・沖底2そうの総網数は1980年代以降に減少傾向
- 島根沖底2そうの総網数は1990年代以降減少傾向（2021年以降は0網）
- 島根小底のキダイ有漁航海数は2007年以降減少傾向

※以西2そう：2そうびき以西
※沖底2そう：浜田以西に根拠地を置く2そうびき沖底
※島根沖底2そう：島根県内の2そうびき沖底のうち浜田よりも東に根拠地を置くもの
※島根小底：島根県小底

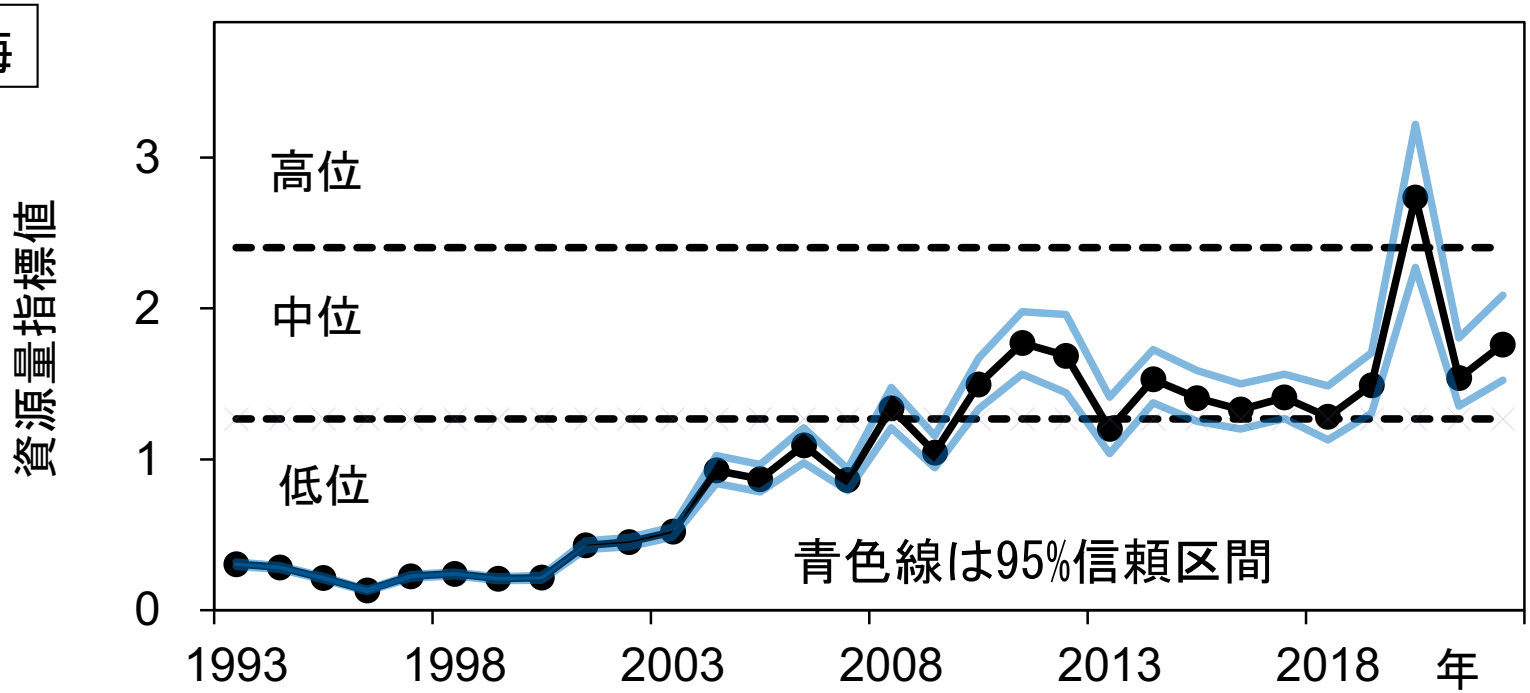
資源評価の流れ



※標準化CPUE：資源や操業による偏りを取り除いた、1操業当たりの漁獲量

資源の動向①

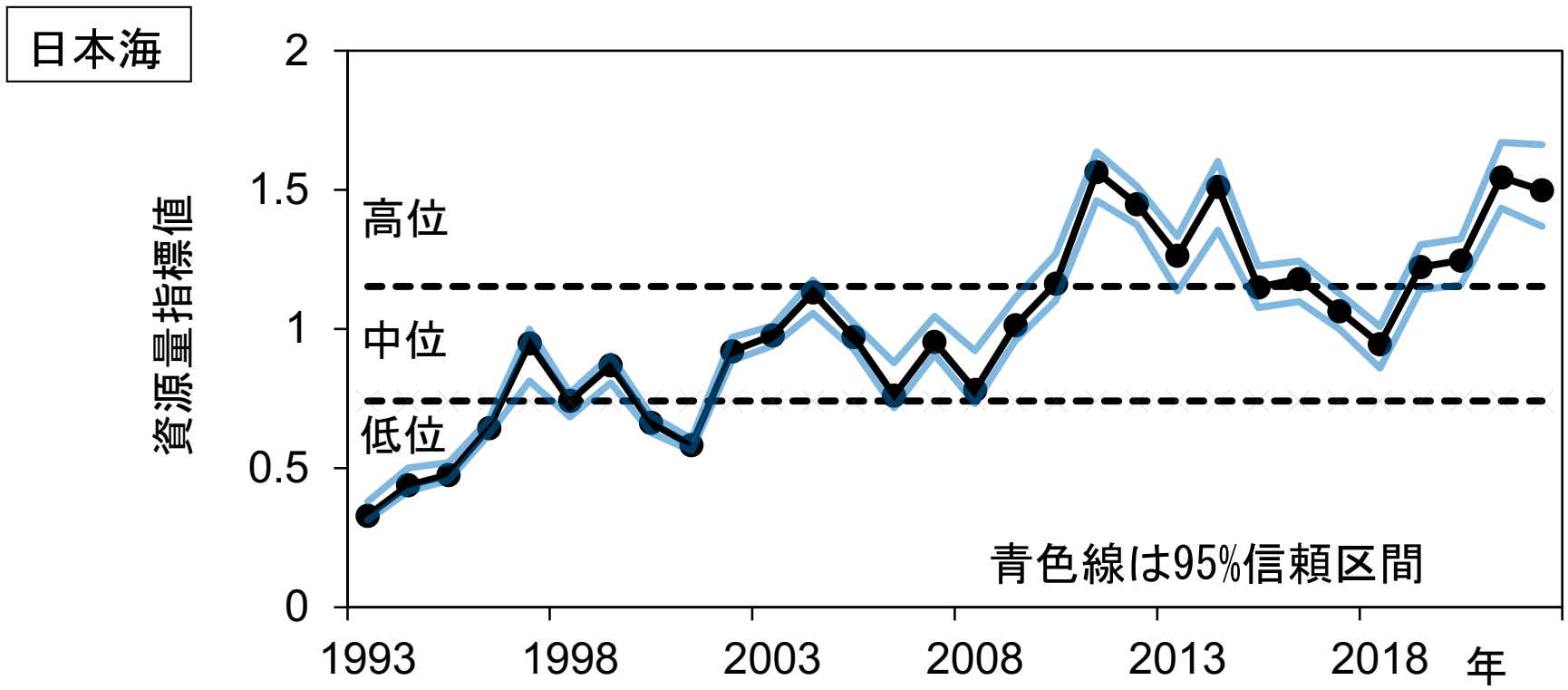
東シナ海



※水準区分　低位／中位：資源量指標値1.27、中位／高位：資源量指標値2.40
（2011年の資源量指標値の2倍（3.54）を歴史的最高水準と仮定した上で最低値との間を3等分して算出）

- 以西2そうとトロール調査のデータから求めた資源量指標値から判断
- 資源水準：2022年の資源量指標値は1.76で「中位」
- 資源動向：直近5年間（2018～2022年）の資源量指標値の推移から「増加」

資源の動向②



※水準区分　低位／中位：資源量指標値0.74、中位／高位：資源量指標値1.15
（1993年以降の資源量指標値の最高値と最低値の間を3等分して算出）

- 沖底2そうのデータから求めた資源量指標値から判断
- 資源水準：2022年の資源量指標値は1.50で「高位」
- 資源動向：直近5年間（2018～2022年）の資源量指標値の推移から「増加」

資源評価のまとめ

- 系群全体の資源水準は資源の主体がある東シナ海の水準を重視し「中位」、動向は「増加」
- 資源量指標値（標準化CPUE）から資源状態を判断
- 両海域とも中位水準として算出したABCを合算して2024年ABCを求めた

2024年ABC

管理基準	Target/ Limit	2024年ABC（百トン）	漁獲割合（%）	F値（現状のF値からの増減%）
$1.0 \cdot Ct_{ECS} \cdot 1.06 + 1.0 \cdot Ct_{WJS} \cdot 1.09$	Target	32	－	－
	Limit	40	－	－

- ABC算定規則の2-1）により、ABClimit=$\delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$で計算
- δ_1：1.0（資源水準が中位の場合の標準値）
- Ct_{ECS}およびCt_{WJS}：それぞれ2022年の東シナ海区および日本海西区の漁獲量
- γ_1：1.06、1.09（東シナ海区では直近5年間（2018～2022年）、日本海西区では直近3年間（2020～2022年）の資源量指標値の傾きと平均値から算出）